

「親しみ国道33号」景観整備について

建設省 松山工事事務所 道路管理二課 角田俊昭
〃 ○ 渡部文雄

1. はじめに

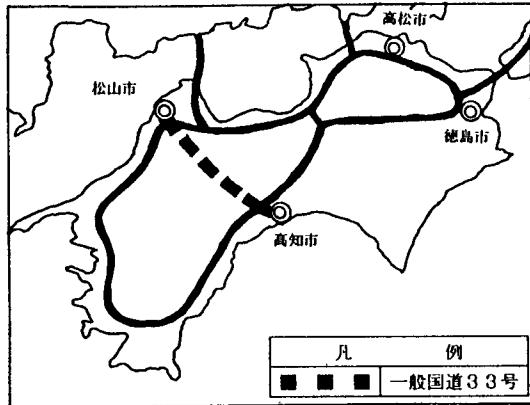
第11次道路整備五箇年計画では、生活者の視点を重視し、活力ある地域づくりや良好な環境創造等の観点に立ちハード、ソフト両面から総合的かつ計画的な道路政策を推進していくため道路整備の目標を次のとおり定められている。

- ・ 生活者の豊かさを支える道路整備の推進
 - ・ 活力ある地域づくりのための道路整備の推進
 - ・ 良好な環境創造のための道路整備の推進
 - ・ 維持管理の充実等

本報告書は周辺都市との連携のもと「活力ある経済に支えられた「ゆとり社会」の実現」づくりを行う参考事例を報告するものである。

2. 一般国道33号の位置づけ

一般国道33号は高知市を起点とし松山市に至る全長約120kmの主要幹線道路で、高松、高知、松山を結ぶ広域幹線ルート（四国Vルート）の一辺を担う、太平洋と瀬戸内を結ぶ重要な路線である。また、一般国道33号は観光の路線でもある。路線のほとんどが四国山脈を横断する山岳道路であり、豊かな自然に囲まれ、観光・レジャー施設が沿線にあり、観光・レクリエイションの要素を多く秘めた路線であることがいえる。



3. 親しみ国道33号推進協議会

本協議会は、一般国道33号沿線の1市2町2村の代表者で構成され、豊富な自然や歴史を活かし、地方色豊かな道路案内、モニュメント、駐車場（休憩所）、市町村の特徴を取り入れたポケットパークを道路沿いに造り遠来のドライバーには休憩所、憩いの場、沿道の市町村にあっては観光拠点等、市町村PR空間に充て、人口の定住や地域活性化の基となる「親しみ国道33号」造りを道路管理者、地方自治体、沿線住民が一体となって整備推進していくことを目的とするものである。

4. 整備理念

一般国道33号の特徴を生かした整備を行うために整備理念を次のように設定した。

「空間を装う場としての道路整備」 (空間軸からの理念)

「文化的な水準での生活道路として機能するための景観整備」……(人間軸からの理念)

「社会軸の基幹空間としての公共的な道路にふさわしい景観整備」・・・（道路と地域との関係軸）

以上を踏まえ、計画地周辺の自然環境や景観に留意しつつ人々の利用に供する空間を目指したものとした。

5. 整備方針

「親しみ国道33号」の主なる休憩施設の整備方針を次のように設定した。

「眺望地点、観光良好地点における休憩施設の新設」

「地域における施設整備等の隣接地点における駐車場整備」

「大規模な残地における駐車場整備」

「敷地の空間機能を明確にする整備」

6. 整備事業例 ・・ ヒメシャラ休憩所

当休憩所は、平成2年度に柳谷村と一体で整備を行ったもので一般国道33号で初めてのポケットパークである。また、「親しみ国道33号」の事業としても最初の施設であり、今後の事業推進に対して重要な役割を持つものである。

柳谷村「ヒメシャラ休憩所」は高知市と松山市のほぼ中間に位置し、険しい山岳道路を運転してきたドライバーに対して常時利用できる休憩施設であり、また、ダム湖畔にあり一年中水位が確保された自然豊かな場所にある。

主要施設概要

・建築物	「レストラン湖畔やなだに」
・自歩道	延長120m 幅員2m (樹脂タイル舗装)
・駐車場	大型車2台 普通車15台
・あづま屋	ヒメシャラの原木を使用した休憩所
・身障者用トイレ	1基
・その他	案内板、照明、大型時計、緑地帯

「ヒメシャラ」は柳谷村の村木でもあり、あづま屋に原木を使用している。また、村営「レストラン湖畔柳谷」では食事の他物産センターの役割をもち、ドライバーへのサービス向上と地域振興を担っている。当休憩所の利用状況は交通量に対して約4%程度、利用時間では約60%が10分以内の休憩でありトイレ休憩、眼覚ましがおもな理由と考えられる。

地元との連携により整備されたヒメシャラ休憩所は平成4年度に「道の人間会議賞」を受賞し、その目的と効果を認められた。また、今後も全体計画を基に施設の充実を計っていく予定である。

その他の事業計画として、現在概成している「レストパーク東明神」、計画中の「御三戸地区」、「松山市久谷地区」、「砥部地区」がある。

7. まとめ

今後、一層の増加が予想される観光・レクリーションには自動車の移動を切り離すとはできず、道路施設に対するレベルの高い整備と管理が要求されている。これらのニーズに応えるべく、今後とも地域との連携を一層密にして自然、環境に配慮した整備を図るとともに既存施設のレベルの高い維持管理を行っていきたい。

